



世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「おはようございます、部長！」

「おー、おはよう。今日も元気だねえ」

「来週からカンクンに友達と行くから元気なんです！」

「そ、、、そうか。カンクンかー、近場でいいところじゃないか。」

「何言ってるんですか部長？笑 カンクンはメキシコの都市で行くのに 16 時間ぐら
いかかりますよ！」

「し、知ってるさ！ブラジルと比べたら近場って意味だ…カンクンに何しに行くん
だ？」

「カンクンはカリブ海に臨む高級リゾートなのでマリンスポーツとか、マヤ文明の遺
跡を見たりとか、あとは美味しいご飯を食べることですかね！！」

「やることが多いな…高級リゾートということは、レストランとか高そうだなあ。」

「それが、カンクンのホテルには『オールインクルーシブ』という制度があって、ホテ
ル代金にご飯代・レジャー代金など全て含まれてるから安いんです！」

「ほう、それはいいな。安いならキミにお小遣いをあげる必要も無いしな。」

「えー！かわいい友達の水着写真撮ってきますからー！お願いしますうー」

「ばっかもーん！わたしは既婚者だぞ！…ところで、今週もちゃんとやってきたか
ね？」

「はーい、やってきましたよ！（ムスッ）」



今週の注目レポート・重要ニュース

■経済指標や重要イベントなど

【1.米国】

先週の米国市場は下落しました。中国や欧州で景気減速懸念が浮上したことや、新 OS に不具合が
発生した時価総額首位のアップル (AAPL) の株価が大きく下落したことなどが市場のセンチメント
を悪化させました。ダウ平均は一時節目の 1 万 7000 ドルを割り込みましたが、金曜日には GDP



確定値が改定値から上方修正されたことなどが好感されて大きく反発し、1万7000ドルの節目を回復しました。

1-1.住宅関連指標

新築住宅販売件数は前月まで昨冬の寒波による落ち込みから脱しきれない状況が続いていましたが、8月分の販売件数は50.4万件と2008年5月以来の高水準を回復しました。中古住宅販売件数については、505万件と市場予想を下回って前月から小幅に販売件数が減少したものの金融危機発生前の2007年夏とほぼ同水準を維持しています。

1-2.GDP 確定値

26日に発表されたGDP確定値は前期比年率換算4.6%増と改定値から0.4%上方修正されました。

1-3. カンファレンスボード消費者信頼感指数

30日にカンファレンスボード消費者信頼感指数が発表されます。同指数は個人消費の先行指標ですが、約7年ぶりの高水準だった前月とほぼ同水準を維持すると予想されています。

1-4.ISM 景況感指数

企業サイドから見た景況感を示すISM景況感指数のうち、10月1日に製造業、3日に非製造業が発表されます。企業利益の推移の予測にも使われる非常に重要な指標として注目されます。

1-5. 雇用統計

10月3日には雇用統計が発表されます。従来から非農業部門雇用者数や失業率のヘッドラインに大きな注目が集まってきましたが、最近はそれらに加えてイエレンFRB議長が重視する労働市場の質的改善を確認するための細かな指標も重要視されています。前月の非農業部門雇用者数は14.2万人増と予想外の低調な伸びにとどまりましたが、9月分は20万人を超える堅調な伸びが予測されています。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

【2.欧州】

先週の欧州の主要な株式指数は下落しました。ユーロ圏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値が予想を下回る低調な内容だったことから欧州の景気減速懸念が浮上しました。

2-1. ユーロ圏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値

50.5と市場予想の50.6に届かず、前月から0.2ポイントの悪化となりました。

2-2. ECB 理事会

2日にECB理事会とドラギ総裁の会見が予定されています。景況感の停滞を背景に、国債買い入れ



による量的金融緩和に踏み込むかどうか注目されます。

【3.日本】

先週の日本市場は、日経平均は小幅に下落した一方、TOPIX はほぼ横ばいながら小幅にプラスとまちまちでした。日経平均は前週に年初来高値を更新したことから利益確定売りが出やすかったことに加え、米国市場が調整色を強めたことから上値の重い展開が続きました。投資先のアリババグループ（BABA）の米国上場が完了し材料出尽くしとなったソフトバンク（9984）が週間で10%近い大幅下落となったこともマーケット全体の重しとなりました。

3-1. 全国消費者物価指数（CPI）

26日に発表された消費者物価指数（CPI）は前年同月比3.3%の上昇と前月から小幅に伸びが鈍化しました。

3-2. 労働市場関連指標

30日に失業率や有効求人倍率といった労働市場の関連指標が発表されます。今後の日銀の金融政策にも関連してくると考えられるため注目されます。

3-3. 日銀短観

10月1日に日銀短観が発表されます。3ヶ月に1度日銀が発表する経済指標ですが、日本で発表される経済指標の中で最も注目度の高い経済指標の1つと言えます。

【4.中国】

先週の中国株式市場はまちまちでした。上海総合指数は堅調に推移し週間ベースで18.3ポイント高となった一方で、ハンセン指数は前週比2.5%超下落しました。

4-1. HSBC 中国製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値

23日に発表された9月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値は50.5と市場予想の50.0を上回り、前月から改善しました。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)



- [\[日本\] J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [\[米国\] 米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[中国\] 中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[その他\] J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

1.日本（前回からの変更なし）

内閣改造後の経済対策および、消費税再引き上げ決定に向けた秋～冬の景気に要注目。

2.米国（前回からの変更なし）

景気回復鮮明に。QE は秋に終了、来年の利上げ時期が焦点に。

3.欧州（前回からの変更なし）

ECB は追加金融緩和を実施。ソブリンQE に踏み切る観測も台頭。次回(10/2)の理事会に注目。

4.新興国（前回からの変更なし）

中国において、8月の鉱工業生産が5年8カ月ぶりの低水準となったため景気後退懸念も。今後の動向に要注目。

「今週も良くできていたよ、榎原君。どんどん進歩しているじゃないか。」

「ありがとうございます。部長の指導のおかげですよ。」

「ところで、さっき言っていた水着の写真本当に…く、くれるのか？」

「部長のへんたーい！冗談に決まってるじゃないですか！笑」

「こらー！大人をからかうんじゃない！！」



利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本投資顧問業協会